

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	Webマーケティング基礎 I	（ NKT13R ）	
講義名（コード）	Webマーケティング基礎 I F	（ NKT13RF ）	
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	堀内 美穂	時間数	30
成績評価教員	堀内 美穂	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	現代のマーケティング理論と実務を総合的に理解し、観光業界に特化したマーケティング戦略を立案・実行する能力を養成すること
全体の内容と概要	1年間を通じて、価格設定、流通チャネル管理、PR、イベントマーケティング、CRM、サステナビリティなどの各種マーケティング要素の基礎について学習する
授業時間外の学修	特になし
履修上の注意事項等	特になし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	出席率 70%以上で期末試験受験者を対象とし、授業内ワークへの参加態度並びに意欲も評価対象とする。		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率× 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーションとマーケティング基本概念	授業の目的と概要説明 マーケティングの基本概念と観光マーケティングの枠組みの紹介
2	観光業界の現状分析	世界及び日本の観光業界のトレンドと統計 グループワーク: 業界分析の基本手法の学習
3	ターゲットマーケットの特定	ターゲットマーケティングの重要性と方法 グループワーク: ターゲット市場の選定と理由の説明
4	マーケティングリサーチの基礎	マーケティングリサーチの手法とデータ収集方法 グループワーク: 実際のリサーチ計画の立案
5	消費者行動の理解	観光消費者の意思決定プロセスと行動モデル グループワーク: 消費者行動分析のケーススタディ
6	観光プロダクトの開発	観光商品開発のプロセスと実例 グループワーク: 新たな観光プロダクトのアイディア出し
7	サービスマーケティングの特質	サービスと物品のマーケティングの違い グループワーク: 観光サービスのマーケティングプラン作成
8	ブランディング戦略	強力なブランドを構築するための戦略 グループワーク: 観光地ブランディングの案の作成
9	広告とプロモーション	広告の種類と効果的なプロモーション手法 グループワーク: 実際のプロモーションキャンペーンの企画
10	デジタルマーケティングの活用	オンラインマーケティングとSNSの活用法 グループワーク: SNSプロモーション戦略の開発
11	価格戦略の基本	価格設定の重要性と戦略 グループワーク: 実際の観光サービスに対する価格戦略の立案
12	流通チャネルの管理	流通チャネルとは何か、その役割 グループワーク: 効果的な流通チャネル戦略の策定
13	前期のまとめ	前期のまとめ 質疑応答
14	テスト	テスト
15	テストフィードバック	テストフィードバック 出題問題の解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	なし
参考文献・資料等	なし
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	キャリアデザイン I		（ NKT13P ）
講義名（コード）	キャリアデザイン I F		（ NKT13PF ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	江戸 真依子	時間数	30
成績評価教員	江戸 真依子	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	企業人事関連職歴任、新人研修・社員研修業務を担当	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	・自分自身の専門学校生活や職業人生、キャリアについて自らが主体となって構想し、実現することを目指す。
全体の内容と概要	・講義と演習により、面接へ向けて実践的なマナーやスキル、履歴書の記入方法を習得する。
授業時間外の学修	・自身の興味のある企業に関するリサーチ（インターンシップ含む）
履修上の注意事項等	・主体性をもって、授業に取り組む姿勢 ・基本的に授業の前半にインプット、後半は学生自身で調べたり考えたり、発表する時間を設ける。

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	授業内容を理解し、主体的に取り組む必要性を知ることができるようになる	【オリエンテーション】講師自己紹介、前期の内容について説明、教材配布 【演習】学生による自己紹介、キャリア面談表の記入
2	基本的なビジネスマナーを理解できるようになる	【ビジネスマナー】社会人に必要とされるマナーについての理解、非言語コミュニケーション 【演習】学生同士で学んだことを練習
3	就職活動スケジュールが理解できるようになる	【就職活動スケジュールと進め方】就職事情について 【演習】就活計画の検討と作成
4	キャリアについて理解できるようになる	【キャリアについて】キャリア意識、マインド、社会人基礎力について 【演習】自分が考える「キャリア」について発表
5	自分の強みを発見し、認識できるようになる	【強みの発見】人生曲線の説明 【演習】人生曲線の記入と強みの理解
6	自己分析し、自分史をまとめることができるようになる	【自己分析】自分史/長所の確認 【演習】自分史の作成、分析
7	他人の紹介ができるようになる	【他己紹介】ジョハリの窓/友達の長所発見 【演習】友達の長所記入、発表（2分/人）
8	自分の特性を知ることができる	【コンピテンシー】コンピテンシーとは 【演習】自身のコンピテンシーについて記入
9	自己PR書の作成ができるようになる	【自己PR】自己紹介、長所、他者から見た自分の良いところを活用 【演習】自己PR文作成、発表（2分/人）
10	筆記試験について理解できるようになる	【筆記試験対策】筆記試験の種類 【演習】筆記試験の問題を解く
11	インターンシップについて理解することができるようになる	【インターンシップ】インターンシップとは、企業への連絡、電話の方法 【演習】インターンシップを実施している企業の検索
12	与えられた課題についてグループディスカッションができるようになる	【ワークショップ】テーマ：「今の日本で変革したいこと、そのビジネス手法」 【演習】ワークショップ/個別面談
13	チームで発表ができるようになる	【ワークショップ】テーマ：「今の日本で変革したいこと、そのビジネス手法」 【演習】ワークショップ/個別面談
14	前期試験	【試験】選択・記述式(100点)
15	フィードバック・まとめ	【前期試験フィードバック】試験のフィードバック、前期のまとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	『留学生のための就職内定ワークブック』（一般社団法人留学生支援ネットワーク）
参考文献・資料等	適宜プリント、就活に関するニュースなどの情報シェアを行う
備考	担当教員は新人研修、社員研修業務経験を活かして講義を行い、職業人生、キャリアについて学生自らが主体的になって構想・実現していくことを指導する。

学校法人ISI学園 専門学校長野ビジネス外語カレッジ

2024年度 シラバス

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネスコンピューティング I		（ NKT13L ）
講義名（コード）	ビジネスコンピューティング I F		（ NKT13LF ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	竹内 玲子	時間数	30
成績評価教員	竹内 玲子	講義期間	春学期
実務者教員	はい	履修区分	必修
実務者教員特記欄	東京コンピューター（株）、東京精電（株） 歴任	授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語OSでのパソコン操作、Microsoft Officeの基礎を習得する 日本語入力をマスターし、基本的なビジネス文書を作成する
全体の内容と概要	テキストに沿って様々な形式の課題を作成し、基本操作を身につける 前期でPowerPoint、後期でExcelを学習します
授業時間外の学修	日本語入力をマスターすることが基本です タイピング練習ができる環境のない場合は、変換表で日本語の文字変換を覚えましょう
履修上の注意事項等	タイピング練習は毎時間おこないますので確実に入力ができるようになりましょう 資格試験もあるので1年生のうちに基礎を身につけるようにしてください

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	Windowsの基本操作ができる 日本語でのタイピングを覚える	教室の使い方、注意、システムの説明・Windowsの基本操作（初回の授業の方で） タイピングソフトを利用したタイピング練習
2	PowerPointの基礎を覚える	PowerPointの概要、起動、新規作成、画面構成確認、入力、保存
3	スライドのレイアウトの種類 オブジェクト操作を覚える	スライドの挿入、箇条書き、図形の挿入、表作成、図の挿入
4	スライド、挿入したオブジェクトの 編集ができる	書式設定、箇条書きの変更、図形の変更、表の編集、図の編集
5	スライドショーの実行ができる 配布資料の印刷設定ができる	テーマ、アニメーション、スライドショー スライドの印刷（印刷設定、ヘッダー・フッターについて）
6	ブラッシュアップ機能が操作できる	配色・テキストの書式設定の変更 スライドマスターを使ったテンプレートの変更方法
7	Excelの起動・入力・保存ができる	Excelの基礎 起動→画面構成確認 新規作成→入力方法・オートフィル練習→保存
8	表の挿入・編集ができる 合計を計算できる	表の作成 表の作成・書式設定・SUM関数
9	縦棒グラフ・円グラフの作成を 覚える	Excel グラフ作成（グラフの種類と効果・縦棒、円グラフの作成・書式の変更）
10	PowerPointにグラフを挿入できる	PowerPointでグラフ作成 Excelとのちがいを確認、書式の設定
11	復習	テスト前練習問題（すべての機能を活用したスライド作成）
12	復習	テスト前練習問題（すべての機能を活用したスライド作成）
13	復習	テスト前練習問題（すべての機能を活用したスライド作成）
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストF B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	30時間でマスタープレゼンテーション+PowerPoint2021 留学生のためのパソコン入門
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント
備考	タイピング練習ソフト（MIKA TYPEほか） 担当教員はIT業界での実務経験を活かし、Microsoft Office製品各種の操作を体系的に指導する

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネスマナー I		（ NKT14H ）
講義名（コード）	ビジネスマナー I F		（ NKT14HF ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	若林 繁実	時間数	30
成績評価教員	若林 繁実	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	ビジネスにおける基本的なマナーを習得し、自分の意思をうまく伝え、円滑なコミュニケーションが取れることを目的とする
全体の内容と概要	さまざまな状況に応じたマナーを学び、実践に生かす
授業時間外の学修	アルバイト先などでの実践練習
履修上の注意事項等	前半は講義スタイルで、後半には演習としてクイズ、作文を毎回実施する

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション/「ビジネスコミュニケーション」が理解できる①	【講義】前期で習得すること、日本人と働く心構え、上司先輩との付き合い方 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
2	「ビジネスコミュニケーション」が理解できる②	【講義】同僚との付き合い方、就業時間外の付き合い方 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
3	「ビジネスコミュニケーション」が理解できる③	【講義】ウチとソトの関係、チームワーク 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
4	「ビジネスコミュニケーション」が理解できる④	【講義】配慮のある話し方、話の進め方、コラム（ジェスチャー） 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
5	「ビジネスのルール」が理解できる①	【講義】時間厳守、就業時間 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
6	「ビジネスのルール」が理解できる②	【講義】身だしなみ、あいさつ 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
7	「ビジネスのルール」が理解できる③	【講義】お辞儀、報告・連絡・相談 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
8	「ビジネスのルール」が理解できる④	【講義】情報管理、ハラスメント、コラム（身だしなみ） 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
9	「社内のマナー」が理解できる①	【講義】話を聞くととき、指示を受けるとき 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
10	「社内のマナー」が理解できる①	【講義】注意を受けたとき、退社時のマナー 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
11	「社内のマナー」が理解できる②	【講義】葬儀のマナー、贈答のマナー 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
12	「社内のマナー」が理解できる③	【講義】食事のマナー、お酒の席のマナー、コラム（たばこのルールとマナー） 【演習】クイズ・理解を深めましょう！
13	ビジネスマナーを理解し、ビジネスマナー検定の過去問題が解ける	【演習】ビジネスマナー検定の過去問題を解いて理解を深める
14	前期末テスト	【前期末試験】前期に習得した内容についての筆記試験
15	フィードバック、まとめ	【前期試験フィードバック】テスト結果をフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	JMAM 留学生・日本で働く人のためのビジネスマナーとルール
参考文献・資料等	
備考	適宜、理解を深めるためのパワーポイント資料を用意

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ビジネス日本語 I		（ NKT14B ）
講義名（コード）	ビジネス日本語 I F		（ NKT14BF ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	宮下 裕衣	時間数	30
成績評価教員	宮下 裕衣	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	将来日本で仕事に就きたいと考えている学習者が、社内外で遭遇するビジネスの場面において、 良い人間関係を築きスムーズに業務を行えるようにすることを目的とする
全体の内容と概要	各課のN2レベルの新出語彙の意味・表現方法を学習し、会話、ロールプレイ、練習につなげる
授業時間外の学修	アルバイト先など実践で積極的に活用するように心がけてもらいたい。
履修上の注意事項等	「ビジネスコラム」を通じて、日本のビジネスマナーや習慣について学ぶ

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	「自己紹介」ができる 1	自己紹介に関する新出の表現・ことばの意味・用法を学び、モデル会話を理解する。
2	「自己紹介」ができる 2	前半は前回学習した語彙や文法を使用したロールプレイなどで会話練習をする後半はビジネスコラムを読み、日本の会社のビジネスマナー、習慣を知る
3	「あいさつの基本」ができる 1	ビジネスシーンでのあいさつに関する新出の表現・ことばの意味・用法を学び、モデル会話を理解する。
4	「あいさつの基本」ができる 2	前半は前回学習した語彙や文法を使用したロールプレイなどで会話練習をする後半はビジネスコラムを読み、日本の会社のビジネスマナー、習慣を知る
5	「電話を掛ける・受ける」ができる 1	電話対応での新出の表現・ことばの意味・用法を学び、モデル会話を理解する。
6	「電話を掛ける・受ける」ができる 2	前半は前回学習した語彙や文法を使用したロールプレイなどで会話練習をする後半はビジネスコラムを読み、日本の会社のビジネスマナー、習慣を知る
7	「注意する・注意を受ける」ができる 1	注意する・受ける時に頻出する新出の表現・ことばの意味・用法を学び、モデル会話を理解する。
8	「注意する・注意を受ける」ができる 2	前半は前回学習した語彙や文法を使用したロールプレイなどで会話練習をする後半はビジネスコラムを読み、日本の会社のビジネスマナー、習慣を知る
9	「頼む・断る」ができる 1	頼む・断る際に頻出する新出の表現・ことばの意味・用法を学び、モデル会話を理解する。
10	「頼む・断る」ができる 2	前半は前回学習した語彙や文法を使用したロールプレイなどで会話練習をする後半はビジネスコラムを読み、日本の会社のビジネスマナー、習慣を知る
11	「許可をもらう」ができる 1	許可をもらう際に頻出する新出の表現・ことばの意味・用法を学び、モデル会話を理解する。
12	「許可をもらう」ができる 2	前半は前回学習した語彙や文法を使用したロールプレイなどで会話練習をする後半はビジネスコラムを読み、日本の会社のビジネスマナー、習慣を知る
13	第 1 回～第 12 回の復習	復習
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	テストFB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	『ビジネス日本語 30 時間』（スリーエーネットワーク）
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	ホテルサービス I		（ NGH12M ）
講義名（コード）	ホテルサービス I A		（ NGH12MA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	宮下 裕衣	時間数	30
成績評価教員	宮下 裕衣	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	ホテル・旅館の形態について知り、即戦力の人材を育てる。
全体の内容と概要	宿泊業界・おもてなしについて学び、お客さまのことを考えた接客ができるようになる。
授業時間外の学修	特になし
履修上の注意事項等	指示があるとき以外は携帯使用禁止

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	授業の進め方についての説明、自国の有名なホテルについて調べる
2	興味のあるホテル・旅館について調べ、発表することができる。	自国の有名なホテルについて調べてまとめ、発表する
3	興味のあるホテルについて調べ、発表することができる。	泊ってみたい日本のホテルについて調べる
4	ホテルと旅館の違いについて考えることができる	泊ってみたい日本の旅館について調べる
5	興味のあるホテル・旅館についてまとめ、発表することができる。	調べた日本のホテル、旅館について発表する
6	興味のあるホテル・旅館についてまとめ、発表することができる。	調べた日本のホテル、旅館について発表する
7	興味のあるホテル・旅館について考え、まとめることができる。	日本のホテルと旅館の違いについて考えてまとめる
8	ホテル内の仕事について知ることができる	ホテル内の部門の業務について知る ①宿泊
9	ホテル内の仕事について知ることができる	ホテル内の部門の業務について知る ②料飲
10	ホテル内の仕事について知ることができる	ホテル内の部門の業務について知る ③宴会
11	ホテル内の仕事について知ることができる	ホテル内の部門の業務について知る ④予約
12	ホテル内の仕事について知ることができる	ホテル内の部門の業務について知る ⑤管理
13	ホテル内の仕事について知ることができる	ホテル内の部門の業務についてまとめ、自分はどの部門に適しているか考える。
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	
参考文献・資料等	新ホテル総論、日本の宿 おもてなし検定初級 公式テキスト
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	レストランサービス I		（ NGH12K ）
講義名（コード）	レストランサービス I B		（ NGH12KB ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	1
授業担当者	宮下 裕衣	時間数	30
成績評価教員	宮下 裕衣	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	ホテル、レストラン業界で即戦力の人材の養成
全体の内容と概要	ホテル、レストラン業界の業務を実践形式を取り入れ、ビジネス目線でお客様集客を考える。
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	指示があるとき以外は携帯使用禁止

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	オウエフアーションヨフ/自国のレストランについて話すことができる	授業の進め方の説明、自分の国のお気に入りのレストランについて話す
2	日本のレストランについて調べることができる	自分の国のお気に入りのレストランについてまとめる 日本のレストランについて調べる
3	自国と日本のレストランの違いを 考えることができる	自国のレストランと日本のレストランの違いについて考えてまとめる
4	ホテル内にあるレストランについて考えることができる	ホテルのレストランはどのような時に使われるのか考える
5	レストランでの接客の注意点について知ることができる	レストランで接客する際の注意点について知る
6	レストランでの接客の注意点について知ることができる	レストランで接客する際の注意点について知り、実践する
7	レストラン部門の組織について知ることができる	レストラン部門内ではどのような仕事をしているのか知る
8	レストラン部門の組織について知ることができる	レストラン部門内ではどのような仕事をしているのか知る
9	ホテル内のレストラン業務について知ることができる。	レストラン見学
10	ホテル内のレストラン業務について知ったことをまとめることができる。	見学したレストランについてのまとめ、レポート作成
11	ホテルのレストラン業務について知ることができる	ホテルのレストランでのお出迎え、席案内、着席補助を知り、お客さまとホテルスタッフになってロールプレイングを行う①
12	ホテルのレストラン業務について知ることができる	ホテルのレストランでのお出迎え、席案内、着席補助を知り、お客さまとホテルスタッフになってロールプレイングを行う②
13	ホテルのレストラン業務について知ることができる	洋食のテーブルセットについて知り、実際にセッティングを行う
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	フィードバックとまとめ

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	
参考文献・資料等	レストランサービススタンダードマニュアル、動画サイトで関連映像使用
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	異文化理解 I		（ NKT13J ）
講義名（コード）	異文化理解 I A		（ NKT13JA ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	桑名美帆	時間数	30
成績評価教員	桑名美帆	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	グローバル化が進む社会の中で、グローバルな環境で働く際に必要となる異文化理解力を深め、国際人としてふさわしい人材になる事を目指す。人前で国の発表を繰り返し行う事でプレゼンテーションスキルが身に付く。
全体の内容と概要	世界の国の文化や歴史を学び、自国のものと比べ違いを理解する。グループワーク、ディスカッション、発表などを行う。
授業時間外の学修	日頃からいろいろな国の学生たちと交流を持つ。
履修上の注意事項等	

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	自己紹介してこれこれの子の文化的背景を理解することができる	自己紹介、色のイメージ
2	異文化理解とは何かを理解することができる	文化とは何か、文化による差異を理解する。
3	これこれの国について、地理的な面から学ぶことができる。	国ごとのグループに分かれそれぞれ自国について、場所（地形）、人口、気候、首都、などを発表する。
4	異文化適応について理解することができる。	カルチャーショック、逆カルチャーショックの体験を話す。
5	行動、視点、環境による文化の違いを体験することができる①	行動、視点、環境による文化の違いを考える。
6	行動、視点、環境による文化の違いを体験することができる②	発想の転換クイズを行い、柔軟な考え方を養う。
7	イメージと固定観念について理解することができる。	固定観念、ファイリングという脳のはたらきを紹介し、実例とともに理解する。
8	ステレオタイプについて理解することができる。	社会的なステレオタイプを紹介し、イメージを話し合う。
9	差別について理解することができる①	差別とは何か？差別の種類、それが生まれる背景について理解する。
10	差別について理解することができる②	差別の体験を話し、差別をなくすための方法を考える。
11	世界各地の価値観について理解することができる①	価値観について、それぞれの国での考え方について話し合う。
12	世界各地の価値観について理解することができる②	各地の価値観についての感想と価値観の違いの実体験を話す。
13	前期のまとめ	まとめプリント
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	
参考文献・資料等	「異文化理解入門」、その他
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	検定対策 I		（ NKT13N ）
講義名（コード）	検定対策 I F		（ NKT13NF ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	宮原 祥子	時間数	30
成績評価教員	宮原 祥子	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本語OSでのパソコン操作、Microsoft Officeの基礎を習得する 日本語入力をマスターし、Wordで基本的なビジネス文書を作成する
全体の内容と概要	テキストに沿って様々な形式の課題を作成して基本操作を身につける 検定試験を目標に操作・知識を学習していく
授業時間外の学修	日本語入力をマスターすることが基本です タイピング練習ができる環境のない場合は、変換表で日本語の文字変換を覚えましょう
履修上の注意事項等	タイピング練習は毎時間おこないますので確実に入力ができるようになりましょう 後期からは資格試験の練習に入りますので、前期で基本的な操作を身につけてください

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	Windowsの基本操作ができる 日本語でのタイピングを覚える	教室の使い方、注意、システムの説明・Windowsの基本操作（初回の授業の方で） タイピングソフトを利用したタイピング練習
2	Wordを起動して操作・保存・終了・ 文字入力（漢字以外）ができる	Wordの基礎（起動→画面構成確認→保存） タイピング練習 文字の入力（ひらがな・カタカナ・アルファベット・記号）
3	文字入力（漢字変換）を覚える ファンクションキー・IMEをつかえる	文字入力 漢字変換・ファンクションキー変換・IMEの使用 タイピング練習
4	短文の文章を入力して 効率的な変換を覚える	短文を入力して効率的な変換を覚える
5	長文の文章を入力して ページ設定を覚える	長文を入力してページ設定を覚える
6	ビジネス文書の作成 社内文書の配置を覚える	文書作成 ご案内（社内文書）作成 文章入力→配置→保存まで
7	編集機能・書式設定ができる	編集機能（コピー・切り取り・貼り付け）の活用 書式設定（フォント・段落グループボタン）の利用
8	表の入った文書を作成できる 表の編集ができる	表の作成 表の入った文書の作成・ページ設定
9	ビジネス文書の作成 社外文書の配置を覚える	文書作成 社外文書（あいさつ文の利用）
10	オブジェクトを操作できる	画像・テキストボックスの入った文書作成 （ワードアート・画像・テキストボックス挿入）
11	学習した機能を活用して問題を 解くことができる	テスト前復習問題 ここまで学習した機能を活用した文書作成
12	学習した機能を活用して問題を 解くことができる	テスト前復習問題 ここまで学習した機能を活用した文書作成
13	学習した機能を活用して問題を 解くことができる	テスト前復習問題 ここまで学習した機能を活用した文書作成
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	テストF B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	30時間でマスター Word & Excel2021 留学生のためのパソコン入門（貸出）
参考文献・資料等	各問題集からの練習問題・プリント
備考	タイピング練習ソフト（MIKA TYPEほか）・レベルに応じた資格試験の練習問題

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	宿泊業務 I		（ NGH120 ）
講義名（コード）	宿泊業務 I A		（ NGH120A ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	1
授業担当者	株式会社ヤドロク	時間数	30
成績評価教員	株式会社ヤドロク	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	ホテル・旅館の形態について知り、即戦力の人材を育てる。
全体の内容と概要	宿泊業界・おもてなしについて学び、お客さまのことを考えた接客ができるようになる。
授業時間外の学修	特になし
履修上の注意事項等	指示があるとき以外は携帯使用禁止

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	おもてなしについて考えることができる。	サービス業におけるお辞儀の実践、日本のおもてなしがなぜすごいと言われているのか考える。
2	興味のあるホテル・旅館について調べ、まとめることができる。	泊ってみたい日本のホテル・旅館を調べてまとめる。
3	興味のあるホテル・旅館についてまとめ、発表することができる。	泊ってみたいホテル・旅館について発表する。
4	宿泊する客の求められていることについて考えることができる。	人はなぜ旅行するのか？お客さまが求めているものは何か考える。
5	お客さま目線でホテルについて知ることができる。	お客さまからよく聞かれる質問を知り、発表したホテルについてより詳しく調べる。
6	スタッフ目線でホテルについて知ることができる。	お客さまに聞かれた質問への答え方を学び、ロールプレイング形式で実践してみる。
7	宿泊約款とは何か知ることができる。	宿泊約款を見て、どのようなことが書いてあるか知る。
8	ホテル・旅館の宿泊プランについて知ることができる。	ホテル・旅館にはどんな宿泊プランがあるか調べてみる。
9	宿泊プランを作成することができる。	どんな宿泊プランがあったら泊まりたいか考え、グループでアイデアをまとめる。
10	宿泊プランを作成することができる。	グループでまとめたアイデアをもとに、宿泊プランを作成する。
11	宿泊プランを作成することができる。	グループでまとめたアイデアをもとに、宿泊プランを作成する。
12	作成した宿泊プランについて発表することができる。	作成した宿泊プランについて発表する。
13	作成した宿泊プランについて発表することができる。	作成した宿泊プランについて発表する。
14	まとめと解説	テスト
15	まとめと解説	フィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	
参考文献・資料等	日本の宿 おもてなし検定初級 公式テキスト
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	地域観光産業 I		（ NGH12U ）
講義名（コード）	地域観光産業 I A		（ NGH12UA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	石田 浩也	時間数	30
成績評価教員	石田 浩也	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本文化や日本の観光を学び、自分自身の職業選択や人生を邁進できる知識を身につける
全体の内容と概要	日本と長野県を中心に地域の産業の共通点や相違について習得する
授業時間外の学修	授業内で発表準備が間に合わない時はホームワーク
履修上の注意事項等	授業での言語は原則日本語で実施するため、ヒヤリング出来る程度の日本語学力が必須

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件	出席率60%以上で期末試験受験者を対象とする		
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画		
回	到達目標	授業内容
1	自己紹介ができる	自己紹介と祖国の伝統工芸を伝える
2	着物を知る	日本伝統衣装の「きもの」を理解をして、上田紬を学ぶ
3	着物の作り方を知る	高価な着物。なぜ高価か、作る工程を工程を見る
4	上田紬を知る	【出前授業】藤本塩田店の岩下オーナーから上田紬の歴史を知る
5	藤本塩田店で機織り体験をする	【フィールドリサーチ】藤本塩田店へ行き上田紬を織る
6	フィールドリサーチまとめ	藤本塩田店で体験したことで印象に残ったことを発表する
7	着物ビジネスを考える①	外国人目線で日本の伝統衣装のビジネスを前向きに考える
8	着物ビジネスを考える②	チームを作り、着物ビジネスと考え、発表する
9	日本人のしきたりを知る	日本人のしきたりを知る
10	お正月のしきたりを知る	正月のしきたりに内容を絞って、楽しい日本の正月を過ごせるようにする
11	日本人のコミュニケーションを知る	日本人のコミュニケーションのモノサシはどこにあるか知る
12	日本人の履き物のこだわり	日本人が履いている履き物の歴史を知る
13	テスト勉強ができる	期末テストに向けてテスト勉強をする
14	期末テスト	テスト実施
15	テスト内容フィードバック	テスト内容、半年の授業の振り返りのフィードバック

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等	
教科書	BIOTOPE
参考文献・資料等	日本のしきたり入門、長野県お大正解、着物関連の教本
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	日本観光地理 I		（ NGH12S ）
講義名（コード）	日本観光地理 I A		（ NGH12SA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	石田 浩也	時間数	30
成績評価教員	石田 浩也	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	日本の観光地などを案内するために必要な日本の地理・観光地についての基礎知識を身につける
全体の内容と概要	日本全体の地理及び都道府県についての概要を知り、主な観光地について学ぶ
授業時間外の学修	日本の観光地を学ぶとともに、自国の観光地の良さを再発見する
履修上の注意事項等	聞くだけの一方通行の授業でなく、自ら考えて答えを導き出す力を養う

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーション	本講座の目的、観光・地理学習の意義について学ぶ
2	世界の中の日本について知る	地球上の日本の位置、日本の領域や周辺国との関係、標準時などを学ぶ
3	日本の地形と気候について知る (1)	日本の山地・火山・川・平野・盆地・海流などを学ぶ
4	日本の地形と気候について知る (2)	日本の気候・季節・自然災害などを学ぶ
5	日本の産業について知る	農林水産業・鉱工業・流通とサービス業・貿易・交通と通信・環境問題・人口問題などを学ぶ
6	日本人の生活について知る	今日の日本の生活と文化・祭り・言葉などを学ぶ
7	日本の地域区分と北海道地方について知る	日本の8つの地域区分とその特徴、北海道地方の概要・特徴・観光地・グルメなどを学ぶ
8	東北地方の各県について知る (1)	東北地方の各県の概要・特徴・観光地・グルメなどを学ぶ
9	東北地方の各県について知る (2)	東北地方の各県の概要・特徴・観光地・グルメなどを学ぶ
10	関東地方の各都県について知る (1)	関東地方の各都県の概要・特徴・観光地・グルメなどを学ぶ
11	関東地方の各都県について知る (2)	関東地方の各都県の概要・特徴・観光地・グルメなどを学ぶ
12	関東地方の各都県について知る (3)	関東地方の各都県の概要・特徴・観光地・グルメなどを学ぶ
13	長野県及び上田市について知る	長野県及び上田市の概要・特徴・観光地・グルメなどを学ぶ
14	まとめと解説	期末テスト
15	まとめと解説	期末テスト F B

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	るるぶ 都道府県大百科
参考文献・資料等	都度、プリントや資料を配布
備考	なし

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	日本語コミュニケーション I	（ NKT14D ）	
講義名（コード）	日本語コミュニケーション I A	（ NKT14DA ）	
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	小須田 代吉	時間数	30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	細かなニュアンスを理解した上で、場面に応じて文法、語彙を使い分けコミュニケーションを図ることができるようになる
全体の内容と概要	N 1 の読解、聴解の対策をしていく
授業時間外の学修	なし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 （小数点以下切り上げ）	授業中の活動評価点 （5点を基準に加点・減点）
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	疑問詞を見つけることができる	読解：疑問提示文 聴解：情報の整理
2	疑問の答えを見つけることができる	読解：疑問提示文 聴解：敬語
3	主張表現を見つけることができる	読解：主張表現 聴解話者の心情を考える
4	筆者が何を評価しているのか読み取ることができる	読解：主張表現 聴解：漢語
5	指示語を見つけることができる	読解：指示語 聴解：予測
6	J L P T形式の問題を解くことができる	JLPT模試 JLPT模試
7	J L P T形式の問題を解くことができる	JLPT模試 F B JLPT模試 F B
8	指示語を指している言葉を説明できる	指示語 ドリル&ドリル第一回実践問題
9	下線部に書かれていない主語や対象語を探すことができる	「誰が」「何が」「何を」などを問う 第一回実践問題
10	それぞれの動作主を明確にし、文の内容を説明できる	「誰が」「何が」「何を」などを問う 第二回課題理解
11	文の前後を見て、言い換えている言葉を見つけることができる	下線部の意味を問う 第二回課題理解
12	下線部をみて、内容をつかむことができる	下線部の意味を問う 第三回課題理解
13	長文を短い時間で読み解くことができる	期末試験直前対策 期末試験直前対策
14	まとめと解説	期末試験
15	まとめと解説	期末試験FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	完全マスター読解N1 完全マスター聴解N1
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	日本語資格対策 I		（ NKT14F ）
講義名（コード）	日本語資格対策 I A		（ NKT14FA ）
対象学科	国際コミュニケーション学科 / グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	英語キャリアコース / グローバルビジネスコース / 観光ホスピタリティコース / WEBマーケティングコース	単位数	2
授業担当者	小須田 代吉	時間数	30
成績評価教員	小須田 代吉	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	選択
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	古風な表現を使った小説や論説文、やや専門的な説明を理解できるようになる
全体の内容と概要	日常生活はもちろん交渉をしたり様々なやり取りができるような文法と語彙を学ぶ
授業時間外の学修	特になし
履修上の注意事項等	なし

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	ファンタジー小説を読んで、やや古風な表現を味わいながら、登場人物やその関係を理解できるようになる 1	文法： ～つ～つ、～ともなく、～べく 語彙：第5、6回
2	ファンタジー小説を読んで、やや古風な表現を味わいながら、登場人物やその関係を理解できるようになる 2	文法：～てからというもの、～ながらに、～たままでのことだ 語彙：第6、7回
3	ファンタジー小説を読んで、やや古風な表現を味わいながら、登場人物やその関係を理解できるようになる 3	文法：～をものともせず、～かたわら、c h e c k 語彙：第8、9回
4	ファンタジー小説を読んで、やや古風な表現を味わいながら、出来事の時序を追って登場人物の心情が理解できるようになる 1	文法：～めく・～めいた、～やいなや、～ごとき 語彙：第10、11回
5	ファンタジー小説を読んで、やや古風な表現を味わいながら、出来事の時序を追って登場人物の心情が理解できるようになる 2	文法：～かと思いきや、～んがため、～のごとく 語彙：第12、13回
6	ファンタジー小説を読んで、やや古風な表現を味わいながら、出来事の時序を追って登場人物の心情が理解できるようになる 3	文法：～にして、～だに、～かねて 語彙：第14、15回
7	ファンタジー小説を読んで、やや古風な表現を味わいながら、出来事の時序を追って登場人物の心情が理解できるようになる 4	文法：～を限りに、check、まとめの問題 語彙：第16、17回
8	やや専門的な説明を聞いて、その内容や発話者の意見が理解できるようになる 1	文法：～からいる、～にかかわる、にあって 語彙：第18、19回
9	やや専門的な説明を聞いて、その内容や発話者の意見が理解できるようになる 2	文法：～ようによっては、check、まとめの問題 語彙：第20、21回
10	古風な表現を使った論説文を読んで、その表現に込められた筆者の主張が理解できるようになる 1	文法：～べからず、（ただ）～のみ、がゆえ、～と相まって 語彙：第22、23回
11	古風な表現を使った論説文を読んで、その表現に込められた筆者の主張が理解できるようになる 2	文法：～にかたたくない、～としてあるまじき、～ずにはすまなかった 語彙：第24、25回
12	古風な表現を使った論説文を読んで、その表現に込められた筆者の主張が理解できるようになる 3	文法：～でなくてなんだろう、～極まりない、～を禁じえない 語彙：第26、27回
13	古風な表現を使った論説文を読んで、その表現に込められた筆者の主張が理解できるようになる 4	文法：～にたる、～べくもない、～なくして 語彙：第28、29回
14	まとめと解説	試験
15	まとめと解説	試験FB

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	文法：TRY日本語能力試験N1 語彙：日本語パワードリルN1文字語彙
参考文献・資料等	
備考	

1. 本授業科目の基本情報

科目名（コード）	旅行業務 I		（ NGH12Q ）
講義名（コード）	旅行業務 I A		（ NGH12QA ）
対象学科	グローバルビジネス学科	配当学年	1学年
対象コース	観光ホスピタリティコース	単位数	2
授業担当者	石田 浩也	時間数	30
成績評価教員	石田 浩也	講義期間	春学期
実務者教員	いいえ	履修区分	必修
実務者教員特記欄		授業形態	講義

2. 本授業科目の概要

授業の目的 到達目標	授業の目標：旅行業務の基礎を理解する 到達目標：旅行業務を通じて観光等のニーズを把握する方法等調査・発表できる
全体の内容と概要	日本の観光地を学習し、自国からの観光客をどう呼べば良いか？を学習する
授業時間外の学修	TV・映画・ネット・SNSを通じ日本の観光はどんな特徴があるのか？を学修する
履修上の注意事項等	授業での言語は原則日本語で実施するため、ヒヤリングできる程度の日本語語学力が必要 外出することもあるかと思うので交通安全・学校への事前許可等が必要

3. 本授業科目の評価方法・基準

評価前提条件			
評価基準	知識（期末試験点） 60%	自己管理能力（出席点） 30%	協調性・主体性・表現力（平常点） 10%
評価方法	期末試験の点数	出席率X 0.3 (小数点以下切り上げ)	授業中の活動評価点 (5点を基準に加点・減点)
成績評価基準	評価	評価基準	評価内容
	S	90～100点	特に優れた成績を表し、到達目標を完全に達成している。
	A	80～89点	優れた成績を表し、到達目標をほぼ達成している。
	B	70～79点	妥当と認められる成績を表し、不十分な点が認められるも到達目標をそれなりに成している。
	C	60～69点	合格と認められる最低限の成績を表し、到達目標を達している。
	D	59点以下	合格点と認められる最低限の成績に達しておらず、到達目標を充足しておらず単位取得が認められない。
	F	評価不能	試験未受験等当該科目の成績評価の前提条件を満たしていない。

4. 本授業科目の授業計画

回	到達目標	授業内容
1	オリエンテーションと自己紹介	講義の目的と概要説明 自己紹介 グループワークの進め方の説明
2	旅行業界の歴史と発展	旅行業界の歴史を学び、現在の業界がどのように発展してきたかを理解する
3	旅行代理店の役割と種類	旅行代理店の種類とそれぞれの役割、機能について知識を深める
4	旅行商品の概要	旅行商品の種類と特徴を学び、それらがどのように顧客に提供されるかを理解する
5	国内旅行業務の基礎	国内旅行のプランニングと管理の基本を習得する
6	海外旅行業務の基礎	海外旅行における基本的な業務フローと注意点を把握する
7	旅行プランの作成方法（基礎）	顧客の要望に合わせた基本的な旅行プランの作成方法を学ぶ
8	交通手段の理解と予約方法	各交通手段の特徴を理解し、予約手続きを習得する
9	宿泊施設の選び方と予約プロセス	宿泊施設の選定基準と予約方法について学ぶ
10	旅行保険の重要性と種類	旅行保険の必要性和選択肢を理解する
11	観光地の選定と特性	人気観光地の魅力とその特性を学び、顧客に適した提案ができるようになる
12	観光地の選定と特性Ⅱ	人気観光地の魅力とその特性を学び、顧客に適した提案ができるようになる
13	前期授業のまとめ	テストに向けて前期授業のまとめと質疑応答
14	テスト	テスト
15	テストフィードバック	テストフィードバック 出題問題の解説

5. 本授業科目の教科書・参考文献・資料等

教科書	パワーポイント等による資料提供
参考文献・資料等	地図でよくわかる都道府県大百科 各種旅行業・観光系雑誌
備考	ビジュアルエイドを多用し、学生同士のグループワークを中心に授業を展開する